

第41回報農会シンポジウム（案） 『植物保護ハイビジョン—2026』のご案内

——「わが国農業の窮地打開に向けた植物防疫の貢献——IPMと輸出拡大」——

趣 旨： コロナ禍からはようやく立ち上がったものの、ウクライナとパレスチナでの戦禍が治まらないところにイラン情勢が加わって、世界中を大きな不安に陥れています。その影響はわが国の農業にも及び、肥料や燃料費の高騰など抱え込む窮地をいっそう深めています。しかし、いかなる状況にあろうとも農業生産は堅持されなければならず、それを支える植物防疫の重要度はますます高まっています。

今回のシンポジウムでは、このように困難な状況で植物防疫が貢献できることとしてIPMと農産物の輸出拡大を取りあげることにしました。IPMは最近の国の施策にも取りあげられ、議論し尽くされた感を抱かれるかもしれませんが、農業環境の劣化が急速に進行する一方で省力化などの技術革新がめざましい今、理論から実践までを総括しなおす意義は大きいと考えます。また、国も取り組んでいる輸出拡大も農業に活力を与える重要な要素ですが、輸出検疫の煩雑さや残留農薬問題などが課題となっています。そんな中、検疫業務を民間でも行えるようになって拡大の余地が開かれつつある現状を**種子の輸出を中心に**紹介します。

主 催： 公益財団法人 報農会

協 賛： 一般社団法人日本応用動物昆虫学会、一般社団法人日本植物病理学会、
一般社団法人日本農薬学会、一般社団法人日本雑草学会

日 時： 令和8年9月30日（水） 10:00～16:45 （受付開始 9:30～）

場 所： 「北とぴあ」つつじホール（東京都北区王子1-11-1） URL: <https://www.hokutopia.jp>

JR京浜東北線王子駅北口より徒歩2分、東京メトロ南北線王子駅5番出口直結

<プログラム>

開 会： 10:00～ 挨拶 報農会理事長 田付 貞洋

講 演： 10:10～11:00 総合防除(IPM)の推進及び現場での実践
農林水産省植物防疫課 藤井 達也

11:00～11:50 IPMのイノベーション —新たな視点で未来型のIPMへ—
東京農業大学総合研究所 山本 敦司

11:50～13:00 休憩・昼食

13:00～13:50 世界と日本におけるバイオスティミュラントとその意義
日本バイオスティミュラント協議会 和田 哲夫

13:50～14:40 除草剤抵抗性の歴史と現在の課題—ヒエ属における抵抗性の出現—（仮
東京農工大学農学部 岩上 哲史

14:40～15:30 種子健全性検査の現状と課題
鳥取大学農学部 木戸 一孝

15:30～15:45 休憩

15:45～16:45 総合討論

参加費： 3,000円（講演要旨集を含む。ただし、講演要旨集のみ購入の場合2,000円）

申込み： 報農会ホームページに掲載しております『開催要領』をご覧の上、申込用紙に必要事項を記入して、メール又はFAXでお申し込みください。

なお、シンポジウム終了後同じ会場で、報農会主催第41回功績者表彰式を行います。

（17:00～17:45 功績者表彰式、表彰式終了後祝賀会：参加費5,500円）

連絡先： 公益財団法人報農会 事務局 TEL/FAX: 03-5980-8773

E-mail: khono511@car.ocn.ne.jp URL: <https://honokai.org>